今回は、先日今年度の調査が終了した「長岡南森遺跡(ながおかみなみもりいせき)」を紹介します。

◎遺跡の概要と調査経過

「長岡南森遺跡」は、南陽市長岡地区「国指定史跡 稲荷森古墳」から南に約 150mの丘陵地にあります。

形が前方後円墳に似ていることや、場所が稲荷森古墳に近いこと、周辺の開発が進み、遺跡にも影響が 及ぶ恐れがあることなどから、平成 30 年度から毎年確認調査を実施しています。令和 3 年度は、丘陵 の南半部を中心に 5 月 12 日から開始し、7 月 20 日まで調査を実施しました。

◎調査の目的

調査の主な目的は以下の2点です。

- ※「長岡南森遺跡」がどのような性格を持つ遺跡なのか?
- ※大型古墳の可能性はあるのか?

◎今年度の調査の主な成果

- ①トレンチ(※1)を計6箇所を調べた結果、各トレンチから縄文・古墳・奈良・平安時代のものと見られる土器や石器が複数出土しました。
- ②丘陵南半部における地形改変の状況を把握しました。
- →丘陵西側に設定したトレンチからは、一部当時の地形と考えられる痕跡が見られたものの、ほとんどの地点で後世の地形改変の影響が大きく、判然としない状況でした。

◎主な出土遺物 縄文時代のもの



甕(※2)の一部と思われます。

左上から右下への縄目が確認できます。



石冠(せっかん ※3)の可能性がある石器ですが、用途はよくわかっていません。



同上 (上から撮影)

奈良・平安時代のもの

刻書須恵器(こくしょすえき ※4) 底部に「西」という文字が刻まれています。



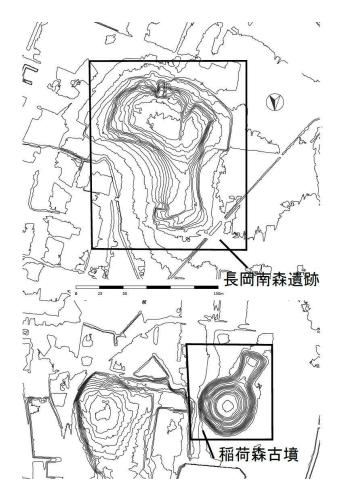
須恵器 (すえき) の坏 (つき ※5)

- ◎「長岡南森遺跡」について今までの調査からわかってきたこと
- ①縄文時代から平安時代の土器や石器等が出土しており、長期間に渡って利用されてきた場所であること。
- ②主に祭祀に使用されたと考えられる古墳時代の土器が複数出土しており、一般的な集落遺跡とは様相が異なること。
- ③遺跡の一部で古墳の可能性を示す状況がみられるものの、後世の改変が遺跡全体に及んでおり今のところ断定できるような証拠はまだ得られていないこと。

◎今後の予定

今年度の調査により得られたデータや出土物の整理等を実施します。次年度も引き続き丘陵の南半部 (古墳後円部を想定)の調査を実施する予定です。

◎測量図(図の上の丘陵地が長岡南森遺跡、図の右下が国指定史跡稲荷森古墳)





長岡南森遺跡全景(西から)

今年度調査時の様子









出土した土器片



出土した土器片



今年度の報道機関向け現地説明会の様子



同左



令和元年度の出土遺物 (壺)



令和元年度の出土遺物 (二重口縁土器 壺)

<遺跡までのアクセス>

JR 赤湯駅から車で約5分。徒歩約25分です。稲荷森古墳の近くに位置しますが、私有地のため普段は立ち入りできません。(調査期間中も関係者以外立ち入り禁止です。)

用語説明

埋蔵文化財	土地に埋蔵されている文化財のこと。具体的には、貝塚・集落跡・古墳・城跡など の遺構と、土器・石器・木製品・金属製品など遺物を指す。
	文化財が埋蔵されている土地のこと。埋蔵文化財包蔵地。
古墳	3世紀後半から約400年の間に作られた土を盛り上げた墳丘をもつお墓。
前方後円墳	丸い古墳(円墳 えんぷん)と四角い古墳(方墳 ほうふん)をつなげたような形状
	をした古墳。
トレンチ(※1)	調査用の溝。
甕(※2)	真横から見た場合、横が最も大きな場所(最大径)が高さの半分より上にあるもの。
	火にあたる部分を大きくとるための形とみられ、煮炊き用に使用されたと考えられ
	る土器。「壺」は最大径が高さの半分より下にくるものが多く、貯蔵用に使用された
	と考えられる。
石冠(せっかん ※ 3)	冠に似た形状から名付けられた石器の一種。上部が斧型・山型・半球形など多様。
	用途は諸説あり、明確にはなっていないが、祭祀用のものとの見方が一般的。北陸
	や中部地方に多く、東北ではあまりみられない。
刻書須恵器(こくし よすえき ※4)	奈良・平安時代を中心にみられる文字や絵などが刻まれた須恵器。墨書きされたも
	のが一般的で「墨書土器(ぼくしょどき)」という。地名や人名、建物を表す場合が
	多い。
坏(つき ※5)	古代において一般的な食物などを盛る器。通常、椀は坏より深く、皿は坏より浅い
	ものを指す。